

### 3- 1 日本史

#### 研究・教育活動の概要と特色

日本史専攻分野は、法文学部創設の翌年に設置された 92 年の伝統をもつ研究室で、これまで国内において日本史の研究・教育の拠点的役割を果たしてきた。研究・教育活動の概要・特色は次の通りである。(1) 広い視野に立ち総合的であるとともに、史料に基づいた厳密な実証的日本史研究をめざしている。(2) 教員を中心とする研究は、古代史では天皇や仏教、官僚制、東北史の研究、中世史では国家周縁地域の比較研究、近世史では藩と地域社会・村落の研究、近現代史では満州事変以後の戦時動員体制や戦時期の広域圏形成に関する研究などを進めている。(3) 教育では、基本的に学生の内発的な問題意識を重視し、古代から近現代までの各時代の政治・経済・社会・文化・生活などの各分野の研究が自由にできるように指導している。学部教育では、自ら史料を分析して課題にアプローチし、自分の考えを論理的に表現できる能力の養成によって、専門的研究の基礎能力を培うとともに、一般的職業人としての能力を養う。大学院教育では専門的研究者を育成する。(4) 学部・大学院を通して史料の調査・整理法を修得させアーキビストとして能力を育成する。

#### I 組織

##### 1 教員数 (2015 年 5 月 20 日現在)

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：柳原敏昭、安達宏昭

准教授：堀裕、籠橋俊光

助教：鈴木琢郎

##### 2 在学生数 (2015 年 5 月 20 日現在)

学部 (2 年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
47	1	11	8	0

### 3 修了生・卒業生数（2010～2015年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	11	4	1
11	15	3	4
12	11	3	4
13	18	5	1
14	17	4	1
15	0	0	0
計	72	19	11

\*2015年度は、5月20日までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2015年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	4	1	5
11	4	1	5
12	6	0	6
13	1	0	1
14	1	0	1
15	0	0	0
計	16	2	18

\*2015年度は、5月20日までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

小野沢真、2010年度、『中世時衆史の研究』

審査委員：教授・柳原敏昭（主査）、教授・大藤修、教授・佐藤弘夫、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

山本悠三 2010年度、『近代日本の思想善導と国民統合』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・佐藤弘夫、准教授・安達宏昭

中島耕二、2010年度、『日本近代化と宣教師—明治期の政治外交と宣教師W・イ

ンブリー—』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・佐藤勝則、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

徳竹 剛、2010 年度、『近代日本形成期の地域振興』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕、准教授・永井彰、

手嶋泰伸、2010 年度、『戦時期における日本海軍の政治史的研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・佐藤勝則、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

天野真志、2011 年度、『幕末維新时期における国事周旋活動の研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕、准教授・片岡龍

松崎瑠美、2011 年度、『近世武家社会のジェンダー・システムと女性の役割』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・沼崎一郎、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕、

遠藤みどり、2011 年度、『日本古代の女帝と讓位』

審査委員：教授・柳原敏昭（主査）、教授・大藤修、教授・川合安、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

籠橋俊光、2011 年度、『近世藩領地域社会の研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・佐藤弘夫

佐々木淳、2011 年度、『仙台藩初期藩政史の研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・佐藤弘夫、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

小佐野浅子、2012 年度 『中近世移行期の土豪と地域社会』

審査委員：教授・柳原敏昭（主査）、教授・大藤修、准教授・有光秀行、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

金銀貞、2012 年度 『日本古代宮都空間の研究—庭園を中心として—』

審査委員：教授・柳原敏昭（主査）、教授・大藤修、教授・川合安、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

佐竹輝昭、2012 年度 『江戸時代初期における幕府の領域的領主編成—いわゆる譜代大名を中心に—』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・佐倉由泰、准教授・

安達宏昭、准教授・堀裕

加藤諭、2012年度 『戦前期日本における百貨店形成過程の研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・永井彰、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

澁谷悠子、2012年度 『近世北方社会における死と供養・慰霊の研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・鈴木岩弓、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

森谷圓人、2012年度 『高抜地と百姓・豪農・村・地域社会・権力に関する研究』

審査委員：教授・大藤修（主査）、教授・柳原敏昭、教授・永井彰、准教授・安達宏昭、准教授・堀裕

吉川圭太、2013年度 『近代日本における社会運動と弁護士』

審査委員：教授・安達宏昭（主査）、教授・柳原敏昭、准教授・高橋章則、准教授・堀裕

小幡圭祐、2014年度 『「大大蔵省」の研究－井上馨と明治国家建設－』

審査委員：教授・安達宏昭（主査）、教授・柳原敏昭、准教授・堀裕、准教授・浅岡善治、准教授・籠橋俊光

## 2 大学院生等による論文等発表

### 2-1 論文等数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	11	2	3	0	16
11	5	3	9	0	17
12	9	2	2	0	13
13	6	0	3	0	9
14	7	0	4	1	12
15	2	0	1	0	3
計	40	7	22	1	70

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

## 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	0	7	10	1	18
11	4	9	6	0	19
12	3	3	6	1	13
13	3	9	8	2	22
14	0	5	10	7	22
15	0	2	3	3	7
計	10	35	43	14	101

\* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文・書評・史料紹介等

相澤裕介「紹介 吉田歆著『古代の都はどうつくられたか』」、『国史談話会雑誌』第52号、2012年2月

泉田邦彦「中世東国における熊野牛玉宝印の版木に関する一考察—伊達政宗の「密書」の起請文料紙をめぐって—」、『常総中世史研究』第2号、pp1-16、2014年3月

泉田邦彦「〈資料紹介〉菊地家蔵「小野崎文書」—小野崎昭通と伊達政宗—」、『常総の歴史』第48号、pp.54-69、2014年6月

泉田邦彦「震災から三年を経た警戒区域のいま —被災した地域と歴史資料のゆくえ—」、『南伊豆を知ろう会 2012・2013』vol.1、pp.1-12,15-22、2014年11月

泉田邦彦「鎌倉末・南北朝期の標葉室原氏 —新出史料 海東家文書の「室原家伝来中世文書」の考察—」、『相馬郷土』第30号、pp.1-25、2015年3月

泉田邦彦「南北朝・室町期の標葉下浦氏 —海東家文書の「下浦家伝来中世文書」の考察— (仮)」、『相馬郷土』第31号、2016年3月発行予定

宇都宮匡児「蒲生家「分限帳」諸本の基礎的考察」、『伊予史談』367号、pp11-22、2012年10月

宇都宮匡児「史料紹介「私用禄」」、『松前史談』30号、pp25-32、2014年3月

宇都宮匡児「書評 藤田達生『蒲生氏郷』」、『伊予史談』375号、pp35-39、2014年10月

遠藤みどり「令制キサキ制度の展開」、『続日本紀研究』第387号、pp.1-19  
2010年

遠藤みどり「令制キサキ制度の成立—妃・夫人・嬪の序列をめぐって—」、『日本

- 『歴史』第754号、pp.1-18、2011年3月
- 王陶陶「明治『皇室典範』下における皇族の臣籍降下について」、『国史談話会雑誌』第54号、2014年1月
- 小佐野浅子「甲斐国都留郡小林氏の系譜と本拠」、『日本歴史』第748号、pp.18-37、2010年9月
- 小佐野浅子「山形大学附属博物館寄託「秋山家文書」—戦国期武田氏関連文書の紹介—」、柴辻俊六編『戦国大名武田氏の役と家臣』岩田書院、2011年10月
- 小幡圭祐「明治初年大蔵省勸農政策の展開過程」、『歴史』第115輯、2010年9月
- 小幡圭祐「明治初年井上馨と大蔵省勸農政策」、『日本歴史』第753号、pp.42-59、2011年2月
- 小幡圭祐「明治初年内務省の農政末端官僚—吉田健作日記にみる—」、『国史談話会雑誌』第52号、pp.73-88、2012年2月
- 小幡圭祐・吉葉恭行「東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研究事項解説書—昭和十八年度～昭和二十年度—」、『東京大学史紀要』、第29号、pp.17-66、2011年3月
- 小幡圭祐「明治三八年の凶作と耕地整理のはじまり」「岩沼・千貫の養豚事業」「青年団の結成」「馬市から牛市へ」「宿継馬車と人力車」「岩沼の自動車とバス」、『子ども岩沼市史』、岩沼市、2012年3月
- 小幡圭祐・吉葉恭行「東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研究事項解説書—昭和十八年度～昭和二十年度—〔前号の続き〕」、『東京大学史紀要』、第30号、pp.1-34、2012年3月
- 小幡圭祐「明治初年大隈重信と大蔵省勸農政策」、『歴史』、第118輯、pp.134-164、2012年4月
- 小幡圭祐・加藤諭「〈記録〉東北大学における総務課文書について～整理分析～」、『東北大学史料館紀要』第8号、pp.1-13、2013年3月
- 小幡圭祐「東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研究事項解説書—昭和十八年度～昭和二十年度—〔完〕」、『東京大学史紀要』、第31輯、pp.21-65、2013年3月
- 加藤諭「戦前期における地方都市百貨店とその影響」『歴史』第114輯、pp.85-108、2010年4月
- 金銀貞「聖武朝の特質についての一考察—節会の分析から—」、『歴史』第119

- 輯、東北史学会、pp1-26、2012年10月
- 熊谷隆次・石毛あゆみ 「史料紹介「元禄拾貳年日記」（八戸藩士遠山家旧蔵本） — 元禄十二～十五年の江戸幕府・八戸藩関係史料 —」、岩手大学『岩手史学研究』第94・95合併号号 2014年3月
- 熊谷隆次『新編八戸市史 中世資料編』（共編）2014年3月
- 熊谷隆次「第4章第6・7・8節」、『新編八戸市史』通史編 原始・古代・中世、pp.416～534、八戸市、2015年2月
- 黒瀬にな「書評 永井隆之・片岡耕平・渡邊俊編『カミと王の呪縛 日本中世のNATION3』『国史談話会雑誌』第55号、2014年11月
- 佐々木淳「近世初期仙台藩領浜方の諸役について—海上高を中心に—」、『歴史』第115輯、pp.46-65、2010年9月
- 佐藤正隆「中世後期における伊予守護河野氏と島嶼部領主—忽那氏および二神氏の趨勢—」、『国史談話会雑誌』第53号、pp.25～56、2012年12月
- 澁谷悠子 「仙台城下絵図における川内地区の武家屋敷の分析」、東北大学埋蔵文化財調査年報』19—第6分冊、2011年6月
- 澁谷悠子 「お殿様の墓・庶民の墓—戒名の格が高いほど墓石大きく—」、『弘前城築城四百年—城・町・人の歴史万華鏡—』、清文堂、2011年1月
- 澁谷悠子 「近世大名墓にみる家内秩序—松前藩主家墓所を対象に—」、『東北文化研究室紀要』第52集、pp.21-48、2011年3月
- 澁谷悠子「松前藩の他国者の足輕召し抱えにみる社会構造の特質」、『文化』第76巻1・2号、2012年9月
- 澁谷悠子「家と墓」、『松前の墓石から見た近世日本』、北海道出版企画センター、2012年12月
- 澁谷悠子「松前と他地域の交流」『松前の墓石から見た近世日本』、北海道出版企画センター、2012年12月
- 清水翔太郎「嫡孫承祖と人生儀礼—秋田藩佐竹義真を事例に—」、『国史談話会雑誌』第52号、2012年2月
- 清水翔太郎「近世中期大家の正室と側室—秋田藩佐竹家を事例に—」『歴史』第122輯、pp24—50、2014年4月
- 徐禎完 「東アジアの仮面—方相氏の受容を中心に—」、『漢文文化圏の説話世界』（中世文学と隣接諸学 第1巻） 竹林舎、2010年4月
- 徐禎完 「植民地朝鮮における能」、『アジア遊学 植民地朝鮮と帝国日本』勉誠

出版、2010年12月

徐禎完・任城模・宋錫源『翰林日本学叢書・帝国日本の文化権力シリーズ』第1巻『帝国日本の文化権力』図書出版小花、2011年

徐禎完「植民地朝鮮と能—京釜鉄等開通式典にて後援された「国家芸能」能—」（同上に収録）

徐禎完 小中村清矩『歌舞音楽略史』（翻訳）、SoMyung、2011年12月

徐禎完 マーク・ピーティ著、浅野豊美日本語訳『植民地』（ハングル訳）、翰林新日本学叢書、2012年3月

徐禎完 「1980年代韓国日本学会の活動と研究成果」、『日本学報』韓国日本学会、2012年5月

徐禎完 翰林大学日本学研究所 日本学資料叢書 『朝日新聞外地版（南鮮版）記事名索引 第一巻』（1935.12~1937.12）（共編）、韓国学術情報、2012.3

徐禎完 翰林大学日本学研究所 日本学資料叢書 『朝日新聞外地版（南鮮版）記事名索引 第二巻』（1938.1~1939.12）（共編）、韓国学術情報、2012.3

徐禎完 翰林大学日本学研究所 日本学資料叢書『朝日新聞外地版（南鮮版）記事名索引 第三巻』（1940.1~1941.12）（共編）、韓国学術情報、2013.4

徐禎完 「「伎楽」追跡考-「舞」から「楽」へ」、『翰林日本学』第22輯、翰林大学日本学研究所、2013年5月

徐禎完 「総力戦体制下における芸能統制：能楽における技芸者証とその意味を中心に」、『外国学研究』、韓国・中央大学外国学研究所、p193~221、2013年9月

徐禎完 「帝国日本の文化権力：1910年代京城の能と謡」、『日本研究』第37輯、韓国・中央大学日本研究所、p297~322、2014年8月

徐禎完 「帝国日本の文化権力研究：近代能楽史と植民地能楽史を越えて」、『日本学報』第100輯、韓国日本学会、p115~133、2014年8月

徐禎完（共著）翰林大学日本学研究所日本学資料叢書『朝日新聞外地版（南鮮版）記事名索引 第四巻』（1942.1~1943.12）、韓国学術情報、2014年4月

徐禎完（共著）『帝国日本の文化権力2 政策・思想・大衆文化』、図書出版小花、2014年11月

徐禎完（共著）ほか 翰林大学校日本学研究所 翰林日本学新書100『大日本帝国の時代』（由井正臣著、岩波書店刊のハングル訳）、2015年8月刊行予定

徐禎完 「植民地朝鮮に於ける能・謡展開史」（仮題）、『日本研究』第39輯、韓国・



中央大学日本学研究所、2015年8月刊行予定

武山眞行「条約書目録（日本外務省）」、佐藤元英・武山眞行・服部龍二編著『日本外交のアーカイブズ的研究』、中央大学出版部、pp.329-439、2013年4月

武山眞行「大震災被災者に対する法律援助システム」、佐藤元英・滝田賢治編著『3・11 複合災害と日本の課題』、中央大学出版部、pp.97-107、2014年12月

手嶋泰伸「米内光政内閣期の政策・新聞・陸軍」、『歴史』第114輯、pp.109-135、2010年4月

手嶋泰伸「仙台停車場位置変更問題にみる明治前期官民関係」、『国史談話会雑誌』第51号、2010年12月

中村崇志「中世興福寺の声聞師編成」、『国史談話会雑誌』第52号、2012年2月  
早坂昌英「紹介 中条唯七郎著／中村英美子訳／青木美智男校註『善光寺大地震を生き抜く 現代語訳『弘化四年・善光寺地震大変録』』」、『国史談話会雑誌』第53号、pp.127~129、2012年12月

星川礼応「紹介 田代脩著『武蔵武士と戦乱の時代 中世の北武蔵』・江田郁夫著『下野の中世を旅する』」、『国史談話会雑誌』、第51号、2010年12月

森谷圓人「天保期、高抜地をめぐる地域社会と権力―出羽国村山郡松橋村上組を事例として―」、『歴史』第114輯、pp.53-84、2010年4月

森谷圓人「村による高抜地解消運動と地域社会、幕府寺社奉行所―近世後期、出羽国村山郡片谷地村を事例として―」、『文化』第75巻1・2号、pp.1-19、2011年9月

森谷圓人「近世後期、高抜地負高請をめぐる幕府代官所、村と地主集団―出羽国村山郡日和田村を事例として―」、『東北文化研究室紀要』第52集、pp.49-64、2011年

森谷圓人「近世中後期における高抜地の存在形態と土地移動証文―出羽国村山郡を事例として―」、『古文書研究』第73号、pp.21-40、2012年6月

吉川圭太「市民が描いた阪神・淡路大震災」、板垣貴志・川内淳史編『阪神・淡路大震災像の形成と受容―震災資料の可能性―』岩田書院、2011年1月

吉川圭太「布施辰治研究の動向と課題」、『宮城歴史科学研究』第70号、2012年

## (2) 口頭発表

- 相澤秀太郎「唐顯慶四年蝦夷入朝の政治的意義」第 49 回蝦夷研究会、岩手大学、  
岩手県盛岡市、2010 年 6 月 19 日
- 相澤秀太郎「芥明天皇五年の遣唐使と蝦夷—蝦夷帯同の目的をめぐって—」、東北  
史学会大会研究報告（日本古代・中世史部会）、山形大学、山形県山形市、  
2010 年 10 月 3 日
- 相澤秀太郎「奥六郡の成立とその存続—瀧原報告・検討報告を聞いて—」、第 55  
回蝦夷研究会、仙台市戦災復興記念館、仙台市、2011 年 12 月 17 日
- 相澤秀太郎「日本古代の国家と夷狄—古代蝦夷の政治的位置づけをめぐって—」、  
仙台古代史懇話会 1 月例会、仙台市民会館、宮城県仙台市、2013 年 1 月 20  
日
- 相澤秀太郎「日本古代の国家と夷狄—古代蝦夷の政治的位置づけをめぐって—」、  
第 41 回古代史サマーセミナー、ホテル竹島、愛知県蒲郡市、2013 年 8 月 25  
日
- 相沢秀太郎「古代蝦夷の鉄生産と蝦夷社会—閉伊における鉄生産の歴史的意義—」、  
シンポジウム「古代三陸の鉄」、岩手県宮古市みなとオアシスみやこ シー  
トピアなあと、岩手県宮古市、2013 年 9 月 21 日
- 相沢秀太郎「元日朝賀と夷狄—古代国家の夷狄認識とその範疇をめぐって—」、東  
北史学会大会、東北大学、宮城県仙台市、2013 年 10 月 13 日
- 相澤裕介「古代賤民制の展開過程」、2011 年度国史談話会大会研究報告、東北大  
学、仙台市、2011 年 6 月 11 日
- 相澤裕介「良賤制の成立過程」、仙台古代史懇話会 7 月例会、仙台市戦災復興記念  
館、宮城県仙台市、2013 年 8 月 18 日
- 泉田邦彦「戦国期常陸における絹衣相論の展開と江戸重通—江戸氏と天台・真言両  
宗の再検討から—」、2014 年度東北中世史サマーセミナー大会報告、ラフォー  
ーレ蔵王、宮城県蔵王町、2014 年 8 月 2 日
- 泉田邦彦「佐竹天文の乱における常陸江戸氏と南奥領主」、2014 年度東北史学会大  
会報告、福島大学、福島市、2014 年 10 月 4 日
- 泉田邦彦「「地域の記憶」を守るために—東日本大震災における資料保全活動の経  
験から—（震災 4 年目の現状報告）」、静岡市文化財サポーター特別公開講  
座「東北における文化財レスキューと“こころ”の復興」、静岡県静岡市、  
2014 年 11 月 29 日
- 泉田邦彦「戦国期における佐竹氏内訌と常陸国衆」、室町期研究会 2 月例会、学習

院大学、東京都豊島区、2015年2月28日

泉田邦彦「北関東・南奥の領主権力と洞（仮）」、第53回中世史サマーセミナー、飯坂温泉「伊勢屋」、福島県福島市飯坂町、2015年8月24日（予定）

泉田邦彦「中世標葉氏と在地社会 - 海東家文書所収の標葉氏関係史料の分析から - （仮）」、相馬郷土研究会、福島県相馬市、2015年9月26日（予定）

宇都宮匡児「蒲生家分限帳諸本について」、第1162回伊予史談会例会、愛媛県生活文化センター、愛媛県松山市、2012年3月11日

宇都宮匡児「関ヶ原の戦いと加藤嘉明」、松前町ふるさと歴史ロマン講座、松前町立西公民館、愛媛県松前町、2013年7月27日

伊藤愛発「古代から中世初期の疾病観念」、2012年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2012年6月9日

遠藤みどり「「大后制」の再検討」、仙台古代史懇話会4月例会、仙台市戦災復興記念館、宮城県仙台市、2010年4月18日

遠藤みどり「皇后制の成立」第39回古代史サマーセミナー、お宿いしちょう、京都市、2011年8月19日

大谷瞭介「宮城県桃生郡の千町歩地主斎藤善右衛門家の家法―「斎藤家家憲」を中心に―」、2013年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2013年6月8日

王陶陶「明治『皇室典範』下における皇族の臣籍降下について」、2013年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2013年6月8日

岡慎太郎「近世前期における武家統制」、仙台近世史フォーラム5月例会、東北学院サテライトステーション、仙台市、2014年5月23日

岡慎太郎「近世前期における武家の主従関係」、2014年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2014年6月14日

岡慎太郎「渡辺屋儀蔵の商人ネットワーク」、白石市図書館創立100周年記念事業白石歴史おはなし会、白石市図書館、宮城県白石市、2014年11月3日

小佐野浅子「山形大学附属博物館寄託「秋山家文書」の紹介」、武田氏研究会ワーキンググループ8月例会、新宿3丁目ルノアール、東京都新宿区、2010年8月10日

小佐野浅子「土豪の生業と地域社会」、東北史学会大会、2011年10月2日

小佐野浅子「駿河国駿東郡芹沢氏の生業」、武田氏研究会ワーキンググループ、山梨県立博物館、山梨県笛吹市、2012年5月5日

鬼丸諒「上書に見る仙台藩の教育論」、2013年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2013年6月8日

鬼丸諒「仙台藩養賢堂の実態に関する一考察—上書・触書・風聞探索書を中心に—」、仙台近世史フォーラム9月例会、東北学院サテライトステーション、仙台市、2013年9月27日

鬼丸諒「仙台藩の上書にみる政策提言の研究」、2014年度東北近世史研究会春のセミナー、東北大学、仙台市、2015年2月21日

小幡圭祐「明治初年大蔵省の政策立案・決定過程」、第10回仙台近現代史研究会例会、東北大学、仙台市、2011年11月19日

小幡圭祐「草創期内務省の機構決定過程の再検討」、第59回内務省研究会、慶應義塾大学、東京都、2012年12月2日

小幡圭祐「農業よりみる近現代の岩沼」、岩沼市民健幸大学市史学科セミナー、岩沼市民図書館、岩沼市、2013年1月12日

小幡圭祐・小田島建己ほか「近代の衛生観念と墓制」、2013年度日本学術振興会二国間交流事業オープンパートナーシップセミナー「介護と看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築」（パネルセッション5）、北京日本学術研究センター、中国北京、2013年11月1日～3日

小幡圭祐「明治初年井上馨と大蔵省対地方政策—「県治条例」の制定と改正をめぐって—」、第62回内務省研究会、専修大学神田キャンパス、東京都千代田区、2013年9月22日

小幡圭祐「明治初年井上馨と大蔵省対地方政策—「県治条例」の制定と改正をめぐって—」、東北史学会大会、東北大学、宮城県仙台市、2013年10月13日

小幡圭祐「明治四年の制度取調」、明治維新史学会例会、明治大学駿河台キャンパス、東京都千代田区、2014年3月15日

加藤諭「社会生活から読む近代日本史」、学都「仙台・宮城」、サイエンスデイ2010、東北大学、宮城県仙台市、2010年7月11日

加藤諭「戦前期地方都市における百貨店と催物」、近現代日本の生活様式と社会環境からみた都市と農村の比較研究研究会（科研費補助金基盤研究(B)）、名古屋大学、愛知県名古屋市、2010年1月15日

加藤諭「Consuming the Local: The Development of the Department Store in Miyagi prefecture」、AAS-ICAS Conference, Honolulu, March 31–April 3, 2011、ハワイコンベンションセンター、ハワイ州ホノルル市、2011年4月2日

金 銀貞「園池司の職掌について」、仙台古代史懇話会7月例会、仙台市戦災復興

記念館、宮城県仙台市、2010年7月18日

金 銀貞「平城京跡出土の園司木簡について」、東北史学会大会研究報告（日本古代・中世史部会）、山形大学、山形県山形市、2010年10月3日

金 銀貞「神泉苑の性格について—古代日本宮都の庭園空間として—」、仙台古代史懇話会1月例会、仙台市民会館、宮城県仙台市、2012年1月21日

熊谷隆次「南部信直と代官木村秀勝」、国史談話会大会、東北大学、2011年6月11日

熊谷隆次「近世初期北奥領主の元服状・一字状—南部氏を中心に—」、東北史学会大会、東北大学、2011年10月2日

熊谷隆次「奥羽仕置と九戸一揆—「稗貫家譜」の分析から、稗貫氏を中心に—」弘前大学國史研究会第89会例会 弘前大学國史研究会 2013年12月14日

熊谷隆次「戦国末期南部領内の境界紛争—斗賀村を中心に—」青森県南部町 南部ふるさと塾南部町立剣吉公民館 2014年2月1日

熊谷隆次「八戸藩の成立と初期の藩政」平成25年度第9回八戸市史講座（八戸市史編纂室） 八戸市立図書館 2014年2月25日

熊谷隆次「奥羽仕置と稗貫氏—『稗貫家譜』の分析から—」、東北大学東北近世史研究会夏のセミナー報告、2014年8月31日

熊谷隆次「戦国期南部の「一家」～糠部郡の政治的秩序～」、第2回南部学研究会ポスターセッション報告、青森県南部町、2014年10月5日

熊谷隆次「南部信直と八戸政栄」、平成26年度南部ふるさと塾報告、青森県南部町、2015年2月28日

黒瀬にな「鎌倉時代の訴訟と『訴陳』」、東北中世史研究会サマーセミナー、一関市博物館、岩手県一関市、2013年8月3日

黒瀬にな「訴訟文書と訴訟の作法—禅定寺領・曾東荘堺相論を例に」、法制史研究会、東北大学、仙台市、2014年5月15日

齊藤和輝 「戦時から戦後の東北意識・東北観 —東亜連盟運動の検討を通じて—」2010年度国史談話会大会研究報告、東北大学、宮城県仙台市、2010年6月12日

齊藤和輝 「戦時から戦後の東北意識・東北観 —東亜連盟運動の検討を通じて—」仙台近現代史研究会・例会、東北大学、宮城県仙台市、2010年6月24日

佐々木淳「近世初期仙台藩の新田開発について」、仙台藩研究会、2010年11月27日

- 佐藤正隆「伊予守護河野氏の内紛と忽那氏」、2012年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2012年6月9日
- 佐藤真海「平安期真言宗と伝法阿闍梨」、第56回日本史関係卒業論文発表会、地方史研究協議会、駒澤大学、2015年4月18日
- 澁谷悠子「蝦夷地寺院国泰寺における将軍・藩士の死」、民衆思想研究会・東北近世史研究会合同研究会、東北大学、2011年8月27日
- 清水翔太郎「嫡孫承祖と人生儀礼—秋田藩佐竹義真を事例に—」、第52回日本史関係卒業論文発表会、駒沢大学、東京都世田谷区、2011年4月16日
- 清水翔太郎「嫡孫承祖と人生儀礼—秋田藩佐竹義真を事例に—」、東北史学会大会、東北大学、2011年10月2日
- 清水翔太郎「近世大名家の交際—秋田藩佐竹家の「両崇」・「両敬」を事例に—」、東北史学会大会、仙台市、2013年10月13日
- 清水翔太郎「近世大名の幼少相続に関する一考察—秋田藩佐竹家と会津藩松平家を事例に—」、近世史フォーラム2月例会、明治大学駿河台キャンパス、東京都千代田区、2014年2月1日
- 清水翔太郎「18世紀中期における秋田藩政の基調と儀礼」、仙台近世史フォーラム3月例会、東北学院サテライトステーション、宮城県仙台市、2013年3月
- 清水翔太郎「小野家文書にみる塩竈神官の世界」、利府町歴史教室、利府町文化ホール、宮城県利府町、2014年8月11日
- 清水翔太郎「近世大名家における「看抱」」、2014年度東北史学会大会、福島大学、福島県福島市、2014年10月4日
- 清水翔太郎「江戸時代の白石の商業—渡辺家文書の調査から—」、白石市図書館創立100周年記念事業白石歴史おはなし会、白石市中央公民館、宮城県白石市、2014年11月3日
- 清水翔太郎「近世大名家の婚姻成立過程の変遷」、歴史学研究会日本近世史部会11月例会、東京大学本郷キャンパス、東京都文京区、2014年11月20日
- 清水翔太郎「江戸時代の白石の商業Ⅱ(仮)」、白石市文化財講演会、白石市中央公民館、宮城県白石市、2015年6月27日(予定)
- 清水翔太郎「江戸時代における大名家」、利府町歴史教室、利府町文化ホール、宮城県利府町、2015年7月6日(予定)
- 清水翔太郎「塩竈神社の儀礼と神官たち」、利府町歴史教室、利府町文化ホール、宮城県利府町、2015年11月30日(予定)

- 菅井優士「伊達氏天文の乱における南奥諸氏の動向—安積郡をめぐる争い—」、2014年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2014年6月14日
- 菅井優士「戦国時代の宗吡院と伊達家」、宗吡院の史料は語る2、丸森町館矢間まちづくりセンター、宮城県丸森町、2015年3月7日
- 徐 禎完「1980年代韓国日本学会の活動と研究成果」、韓国日本学会、大韓民国、2012年2月
- 徐 禎完「日本学関連研究所の現況と指向点」、韓国日本研究団体第1回国際学術大会「3.11以後の韓国の日本研究」シンポジウム、2012年8月24日
- 徐 禎完「東アジア日本研究の中心課題の国際研究の可能性」、第3回東アジア日本研究フォーラム、北京外国語大学北京日本学研究中心、2012年11月3日
- 徐 禎完「韓国の日本研究：一研究者の修惑」第七回広島大学教育学部国語教育カフェ、広島大学、2013年6月22日
- 徐 禎完「安部政権の歴史認識と日韓関係の展望」東海大学跨領域日本区域研究中心 第三屆日本研究論壇、台湾・東海大学、2013年9月29日
- 徐 禎完「近代能楽史と植民地」国際日本文化研究センター 第273回日文研フォーラム、ハートピア京都、2013年12月10日
- 徐 禎完「近代能楽史と植民地能楽史」立命館大学コリア研究センター月例研究会、立命館大学、2014年1月15日
- 武山眞行「国際法から見た対米英蘭開戦続」、日本国際政治学会・開戦経緯の再検討部会、つくば国際会議場、茨城県つくば市、2011年11月11日
- 高橋愛理「室町殿女房と公武関係—取次を事例として—」、2014年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2014年6月14日
- 手嶋泰伸「海軍首脳部の対米開戦決意」、国史学会7月例会、國學院大學渋谷キャンパス、東京都渋谷区、2010年7月10日
- 手嶋泰伸「コメント：歴史学の視点から」、シンポジウム 近代日本の戦争と宗教、東北大学、宮城県仙台市、2010年9月6日
- 手嶋泰伸「海軍の対米開戦決意」、仙台近現代史研究会・第4回セミナー、かんぼの宿松島、宮城県松島市、2010年9月12日
- 手嶋泰伸「ロンドン海軍軍縮問題における海軍内対立の実態」、近現代史研究会、名古屋大学、愛知県名古屋市、2010年10月30日
- 中村崇志「中世興福寺の声聞師編成」、2011年度国史談話会大会研究報告、東北

- 大学、仙台市、2011年6月11日
- 早坂昌英「狐と狸のイメージヒストリー」、2012年度国史談話会大会研究報告、  
東北大学、仙台市、2012年6月9日
- 星川礼応「室町期今川氏庶流家の系譜に関する考察」、2010年度国史談話会大会  
研究報告、東北大学、宮城県仙台市、2010年6月12日
- 松岡祐也「1586年天正地震における伊勢湾沿岸地域の地震被害について」歴史地  
震研究会、京都府京丹後市、2015年9月21日（予定）
- 松平望美「千葉県師範学校附属小学校の「自由教育」における意義と限界」、2011  
年度国史談話会大会研究報告、東北大学、仙台市、2011年6月11日
- 宮崎嵩啓「ポスト高度成長期における公害反対運動—富山県・イタイイタイ病問題を  
事例に一」近現代史研究会（名古屋大学）、名古屋大学、愛知県名古屋市、  
2015年3月8日
- 本木成美「幕府下級役人の情報収集とその活用」、2013年度国史談話会大会研究報  
告、東北大学、仙台市、2013年6月8日
- 本木成美「「新見記録」にみる幕府目付制度に関する一考察」、仙台近世史フォー  
ラム7月例会、東北学院サテライトステーション、仙台市、2014年7月25  
日
- 森谷圓人「近世後期、高抜地負高請をめぐる幕府代官所、村と地主集団—出羽国村  
山郡日和田村を事例として—」、東北史学会大会研究報告（日本近世・近代史  
部会）、山形大学、山形市、2010年10月3日
- 森谷圓人「近世後期・幕末維新期の村と土地所有—出羽国村山郡を事例として—」、  
山形史学研究会研究報告、山形大学、山形市、2011年9月14日
- 森谷圓人「高抜地と百姓・豪農・村・地域社会・権力に関する研究—出羽国村山郡  
を事例として—」、東北近世史研究会サマーセミナー、小原温泉かつらや、  
白石市、2012年8月26日
- 森谷圓人「幕末維新期、村・地域社会の民衆運動と土地問題—出羽国村山郡を事例  
として—」、山形史学研究会研究報告、山形大学、山形市、2012年9月22日
- 吉川圭太「布施辰治研究の動向と課題」、宮城歴史科学研究会大会、東北学院大学  
土樋キャンパス、宮城県仙台市、2010年9月25日
- CAMPBELL Alesia Jayne「Translating Popular History : (Potential) Issues in the  
Translation of Historically-based Japanese Popular Media」、Life and Identity in Asian  
Contact Zones、California State University, Long Beach、Long Beach, California,



USA、2011年3月19日

CAMPBELL Alesia Jayne 「History Transformed: Sengoku Daimyo in Japanese Popular Media」 Western Conference for the Association of Asian Studies 2012、Holiday Inn, West Yellowstone、West Yellowstone, Montana, USA、2012年10月11日～13日  
CAMPBELL Alesia Jayne・塚原啓文「明治維新・その後の宗眸院」、宗眸院の史料は語る2、丸森町館矢間まちづくりセンター、宮城県丸森町、2015年3月7日

CAMPBELL Alesia Jayne 「明治26年に英語で書かれた伊達政宗の伝記 —Colyer Meriwether氏の論文を中心に—(仮)」、2015年度国史談話会大会研究報告、東北大学、宮城県仙台市、2015年6月13日(予定)

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

佐竹輝昭 第7回徳川奨励賞、財団法人徳川記念財団、2010年度  
遠藤みどり 平成23年度総長賞(大学院)、2011年度  
浅井陽子 平成25年度総長賞(学部)、2013年度  
熊谷綾 平成26年度総長賞(学部)、2014年度

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2011年度 PD採用 2人  
2013年度 PD採用 1人、DC採用 1人  
2014年度 DC採用 1人  
2015年度 DC採用 1人

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	1	1	2
11	4	0	4
12	1	0	1
13	0	1	1
14	4	0	4
15	1	0	1
計	11	2	13

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	1	1	1
11	2	1	3
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	1	1	2
計	4	3	7

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

- 松崎瑠美 グローバルCOE研究員 2010年度  
天野真志 東北大学東北アジア研究センター調査協力員 2010年度  
中野渡俊治 花園大学文学部准教授 2011年度  
安宅俊介 新潟市立博物館学芸員 2011年度  
張 基善 一関市立芦東山記念館専門研究員 2011年度  
永井隆之 台湾国立政治大学外国語文学院日本語文学系助理教授 2011年度  
渡邊 俊 福岡女子大学国際文理学部講師 2011年度  
徳竹 剛 福島大学人文社会学類准教授 2011年度  
佐藤健治 東北芸術工科大学芸術学部准教授 2012年度  
高橋陽一 東北アジア研究センター助教 2012年度  
天野真志 東北大学災害科学国際研究所助教 2012年度  
松崎瑠美 東北大学大学院文学研究科グローバルCOE助教 2012年度

佐藤大介 東北大学災害科学国際研究所准教授 2012年度  
手嶋泰伸 福井工業高等専門学校助教 2013年度  
松崎瑠美 東北大学大学院文学研究科博士課程教育リーディングプログラム助  
教 2013年度  
風間亜紀子 宮城工業専門学校准教授 2015年度  
加藤 諭 東京大学史料館特任助教 2015年度  
兼平賢治 東海大学文学部専任講師 2015年度  
鈴木琢郎 東北大学大学院文学研究科助教 2015年度

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 7人  
学芸員 1人  
新聞社社員 1人  
図書館職員 2人

## 8 客員研究員の受け入れ状況

ソウル大学校（大韓民国）HK研究教授 金 聖洙 2010年3月1日～2010年5  
月31日

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

江陵原州大学校（大韓民国）人文大学教授 朴 慶洙 2015年2月2日～2月8日

## 10 刊行物

『歴史』 東北史学会 毎年度2回刊行  
『国史談話会雑誌』 東北大学国史談話会 毎年度1回刊行。

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005～2015年度 東北史学会事務局  
2005～2015年度 国史談話会事務局  
2005～2015年度 宮城歴史科学研究会事務局  
2005～2014年度 国史談話会大会開催  
2005～2014年度 東北史学会大会開催

2011 年度 民衆思想研究会大会

2011 年度 シンポジウム「災害におけるジェンダーとマイノリティ」

2014 年度 シンポジウム「東北史を開く」

2015 年度 第 30 回古代寺院研究会開催・事務局

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

古代史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。

中世史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。

近世史研究会 研究室の学生を中心とする。毎週開催。

近代史研究会 研究室の学生を中心とする。毎月開催。

古代史懇話会 研究室構成員と学外者。毎年例会 2 回。

古写経調査研究会 研究室構成員と学外者。調査を年 3 回程度随時。

東北中世史研究会 研究室構成員と学外者。毎年例会 3 回程度、サマーセミナー 1 回。

東北近世史研究会 研究室構成員と学外者。毎年セミナー 2 回。

仙台近現代史研究会 研究室構成員と学外者。毎年例会 3 回程度、セミナー 1 回。

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

日本史専攻分野では、定年により 2012 年度末に教授大藤修が退職した。その一方で 2010 年度より堀裕が、2014 年度より籠橋俊光が准教授として新たに着任し、2010 年度には柳原敏昭が、2013 年度には安達宏昭がそれぞれ教授に昇任した。助教は、2011 年度末まで風間亜紀子が、2013 年度から 2014 年度まで兼平賢治が在任し、2015 年度からは鈴木琢郎が着任した。この結果、2014 年度の教員構成は教授 2 人、准教授 2 人、助教 1 人で、古代・中世・近世・近現代の各時代の専門家による研究・教育を行っている。また、2014 年度から災害科学国際研究所准教授の佐藤大介が兼務教員として実習や各論の授業を、文学研究科博士課程教育リーディングプログラム助教の松崎瑠美が特論を担当している。

学年ごとに、学部学生の定員は 15 人、大学院の定員の目安は前期課程 4 人、後期課程 2 人である。この 5 年間、学部は 2014 年度の 3 年次生以外は定員を満たしている。大学院は、例年入学定員を上回っていたが、定年に伴う教員の交代時期にさしかかっていたことも影響して、後期課程入学者は 2010 年度以外定員を下回った。しかし、前期課程は 2014 年度以外定員を満たしており、本研究室在籍者総数は、研究生等の非正規

学生も含めると恒常的に 70 人程度で、期間以前は 90 人近くおり、教員の教育面での負担は重い。

学部教育は、内発的な問題意識をもって、自ら課題を設定し、自分の考えを論理的に表現できる能力の養成を目標にし、2 年次に古文書学、各時代の日本史基礎講読、3 年次から各時代の日本史演習、日本史実習の授業を配し、史料の読解力、論文の理解力などの基礎学力を身につけさせ、4 年次に卒業論文あるいは卒業研究の作成を行わせている。卒業論文はテーマに関わる史料の分析にもとづいて自身の見解を論述させ、卒業研究は卒業論文より大きなテーマに関する学説史の整理をさせている。大学院進学希望者は卒業論文を義務づけているが、就職希望者であっても毎年度、大半は卒業論文を選択している。卒業論文では毎年、学会誌に発表できるレベルのものが 2、3 本はあり、地方史研究協議会主催の日本史関係卒業論文発表会にもほぼ毎年 1 名参加し、高い評価を得ている。

毎年、学部 3 年生を対象に研修旅行を実施し、史跡や歴史系の博物館・史料館・文書館などを見学させ、歴史を肌で感じさせることも試みている。行き先は学生の希望によって決め、例年、奈良・京都が多いが、2010 年度は中国地方、2011 年度は中京地域、2012 年度は北部九州（福岡・佐賀・長崎）、2013 年度は滋賀県、2014 年度は四国地方（香川・高知県）にて実施した。研修旅行は学生たちに自主的に企画・実施させており、歴史教育という面のみならず、企画力や行動力を培い、学生相互および学生と教員の親睦を深める上でも大きな意義をもっている。以上、総じて学部教育で意図しているところは達成できていると評価できる。

一方、大学院においては、学部で培った基礎的学力を基に自己の研究を進展させ、修士論文（2010 年度からは修士研究も選択可能となった）・博士論文を完成させるように指導している。また、歴史学の教育のみならず、学部では日本史実習、大学院では史料管理学の授業を設けてアーキビスト養成教育も行っている点が本研究室の特徴であり、国立公文書館、文化庁文化財調査官、全国各地の公立文書館・歴史博物館、大学史料館等に多くの人材を送り出している。2009 年度～2011 年度には「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」という課題で文部科学省の組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院 GP）に採択され、日本史専攻分野はアーキビスト養成コースを担うことになったので、その教育に必要な機材とアーカイブズ学関係の図書の充実をはかるとともに、実地教育として東北大学附属図書館、東北大学史料館、一関市芦東山記念館等に所蔵されている史料の整理と目録作成を行い、学内外の史料保存利用体制の整備に貢献した。

2004 年度以降は、2003 年の宮城県北部地震で被災し、本学の日本史関係の教員・学生が救出活動を行ったのが機縁となって本学附属図書館に寄贈された宮城県河南町齋藤家史料の整理を、アーキビスト養成教育の一環として進め、2010 年度に目録を完成させた。齋藤家は戦前においては全国第 2 位の巨大地主家であり、伝来史料群は 100 万点を超える膨大なもので、全国的に注目を集めており、2007 年 7 月には仙台放送が「シリーズ東北大学百年物語」の一環として、その整理作業を取材し放映している。当史料目録は本学附属図書館ホームページの Web 上で公開し、史料の閲覧公開している。

2003 年から宮城歴史資料保全ネットワークが、宮城県北部地震で被災した歴史資料の救出と、予想される宮城県沖地震に備えるための地域伝来の史料の所在調査を行っている。その主体となっているのは本研究室の学生であり、地域の史料保存への貢献は大なるものがある。2011 年 3 月には東日本大震災に見舞われ、広範囲にわたって歴史資料も被災し、各地でその救出・保全活動が展開されているが、中心となって活動しているのは本研究室の出身者であり、教員・学生もボランティアとして貢献している。地震で散乱した本学附属図書館所蔵史料の片付けを行ったのも、本研究室の教員と学生である。

本研究室は東北地方の日本史研究の拠点として活動してきており、研究室には東北史学会（日本史・東洋史・ヨーロッパ史・考古学の研究者を網羅する東北地方最大の歴史学会）と国史談話会（本研究室の教員・在籍学生・卒業生・大学院修了生からなる同窓の学会）の事務局が置かれ、運営の中心を担っている。毎年、大会を開催し、定期の機関誌を刊行しているが、東北史学会と国史談話会の両大会ともに講演会は一般市民にも公開しており、研究成果の社会への普及の機会ともなっている。特に 2014 年度東北史学会大会では、公益財団法人史学会・福島大学史学会との共催で、シンポジウム「東北史を開く」を 10 月に開催し、多くの聴衆を集めた。なお、このシンポジウムの記録は、今秋、山川出版社から出版の予定である。

この他、本研究室の教員・学生と外部の研究者によって古代史懇話会、東北中世史研究会、東北近世史研究会が組織され、例会とセミナーを開催している。2006 年度には、新たに仙台近現代史研究会も発足し、活動を開始した。これらは全国的な研究集会も主催している。列举すれば次の通りである。東北中世史研究会主催のシンポジウム（2008 年・2010 年。前者の記録集は出版されている）、第 73 回民衆思想研究会（2011 年）。

学生の自主的な研究会活動も活発であり、古代・中世・近世・近代の時代別に研究会が組織され、毎週、読書会や史料講読会を開催している。また、宮城歴史科学研究会の運営においても本研究室の教員と大学院生が事務局を担い、中心的な役割を果たしてい

る。

本文学研究科主宰「グローバル COE プログラム 社会階層と不平等研究教育拠点の世界的展開」（2009 年度～2012 年度）には、本専攻分野より大藤修が事業推進担当者として参画した。また COE に研究員に 2 名、COE 大学院生に計 3 名、グローバル COE に研究員 1 名、大学院生 1 名、助教 1 名が採用され、学際的な研究活動を行ってきた。その一環として、2011 年 12 月には、グローバル COE に参画している日本史専攻の教員と研究員の企画で、「災害におけるジェンダー・マイノリティ」というテーマのシンポジウムを開催した。

過去 5 年間における大学院生の論文等の発表や学会・研究会での口頭発表は総じて活発であったと評価できる。2006 年度より文学研究科東北文化研究室が刊行を開始した『東北文化資料叢書』も第 1、2、6 集は本研究室の大学院生・教員が編集を担当しており、『東北文化研究室紀要』にも毎年論文を発表するなど、東北文化研究室の活動への貢献度は高いものがある。課程博士の学位は、コンスタントに毎年取得し、2012 年度は 6 名が取得した。優れた研究成果をあげた若手研究者に授与される徳川奨励賞も 1 名が受賞した。東北大学総長賞受賞者もこの 5 年間で 3 名いる。日本学術振興会研究員の採用件数は、一時減少したが、2011 年度には P.D.2 名が、2013 年度は P.D.1 名、D.C.1 名、2014・5 年度はそれぞれ D.C.1 名が採用され、継続するようになった。

2011 年 9 月 27 日～10 月 3 日、2012 年 6 月 4 日～28 日には、東北大学史料館・大島正隆文書研究会主催「清風一過—大島正隆の歴史学と民俗学—」（於附属図書館本館）が開催され、学外からも多くの見学者を集めた。本研究室は共催者となっている。また、主催の大島正隆文書研究会は本研究室員・出身者が主体である。この他、各教員と大学院生が東北地方の自治体史編纂事業に委員として参画し、その一環として史料の調査・保存活動と地域史研究を進めている点も、本研究室の特色である。

活動の場は国際的にも広がっている。大藤修がシンガポールで講演を行い、柳原敏昭・堀裕が韓国やインドネシアで調査を実施している。大学院生も内外の国際学会で発表している。

### Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015 年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

大藤 修「組織体と文書料紙—幕府代官所文書を事例に一」、富田正弘編『2006

- ～2007 年度科学研究費補助金基盤研究 (A) 「紙素材文化財 (文書・典籍・聖教・絵図) の年代推定に関する基礎的研究」研究成果報告書』、pp.50-57、2010.4
- 大藤 修「百姓身分と家」、『江戸の人と身分 2 村の身分と由緒』、吉川弘文館、pp.10-37、2010.7
- Ōtō, Osamu 「Life and Death, Funeral Rites and Burial Systems in Early Modern Japan」、『EARLY MODERN JAPAN』No.19, the Northeast Asia Council of the Association for Studies、pp.3～20、2011
- 大藤 修「仙台藩儒学者芦東山の生涯と関係史料の伝来・構成：付「芦東山記念館所蔵史料目録」」、『東北大学文学研究科東北文化研究室紀要』第 53 集、pp. 1～32、2012.3
- 大藤 修「近代巨大地主家宮城県桃生郡河南町斎藤家の来歴と伝存史料群の構成—被災救出史料の整理・公開の一事例—」、『歴史』第 118 輯、東北史学会、pp.48～79、2012.4
- 大藤 修「近世の結婚と女性」、『アジア遊学 157 東アジアの結婚と女性』、勉誠出版、pp.99～111、2012.9
- 大藤 修「老いていかに生きるか—下野の老農「田村吉茂」と仙台藩儒学者「芦東山」」、『日本歴史』第 776 号、日本歴史学会、pp.115～124、2013.1
- 柳原敏昭「唐坊と唐人町」、荒野泰典・石井正敏・村井章介編 日本の対外関係 4 『倭寇と「日本国王」』吉川弘文館、332p、pp.204-214、2010.7
- 柳原敏昭「東北中世史の開拓者 大島正隆の鈴木家調査」、池享編『産金村落からみた奥州の地域社会』、岩田書院、pp.225-249、2012.10
- 柳原敏昭「史学史研究の現在—東北中世史の開拓者 大島正隆を中心として—、第 50 回中世史サマーセミナー実行委員会編『日本中世史研究の歩み—中世史サマーセミナー50 周年記念シンポジウム報告集』、岩田書院、pp.69-94、2013.5
- 柳原敏昭「『鎌倉遺文』の「古田券」を典拠とする文書について—『遺文』未収録文書の紹介もかねて—」、東京大学史料編纂所研究成果報告 2012・4『協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築』科学研究費補助金・基盤研究 (A) 成果報告書、pp.83-95、2013.3
- 柳原敏昭“Onmyodo in the Muromachi Period”, JAPANESE JOURNAL OF RELIGIOUS STUDIES Vol.40, pp.131-150,2013 (translated by Jon Morris)、「室町時代の陰陽道」(林淳一・小池淳編『陰陽道の講義』嵯峨野出版、2002) の翻訳



- 柳原敏昭「中世日本国周縁部の歴史認識と正統観念」、熊谷公男・柳原敏昭編『講座  
東北の歴史 3 境界と自他の認識』、清文堂、pp.274-295、2013.11
- 柳原敏昭「大島正隆と森嘉兵衛一戦前・戦中期東北地方の研究者間交流」、伊藤清郎編  
『最上氏と出羽の歴史』、高志書院、pp.205-222、2014.2
- 柳原敏昭「中世の交通と地域性」、『岩波講座 日本歴史 7 中世 2』、岩波書店、  
pp.113-144、2014.4
- 安達宏昭「大学における『歴史学』教育の意義と方法—『概説科目（教職教科専門  
科目）』に着目して—『宮城歴史科学研究』第 67 号、pp.31~44、2010.12
- 安達宏昭「『大東亜建設審議会』論—戦時期の『自給圏建設』をめぐる—」、粟  
屋憲太郎編『近現代日本における戦争と平和』、現代史料出版、484p、pp.119  
~161、2011.2
- 安達宏昭「日本の東南アジア・南洋進出」、和田春樹ほか編『岩波講座 東アジア  
近現代通史』第 4 卷（社会主義とナショナリズム）、381p、pp.340~359、2011.3
- 安達宏昭「戦時期国土計画と東北地方—仙塩地方開発を事例に—」、安達宏昭・河  
西晃祐編『講座 東北の歴史』第一巻、清文堂出版、352p、pp.134~153、2012.12
- 安達宏昭「『大東亜共栄圏』論」、吉田裕ほか編『岩波講座 日本歴史』第 18 卷  
（近現代 4）、岩波書店、2015.5
- 安達宏昭「戦前・戦後の国土開発と塩釜—港湾を中心に—」、『国史談話会雑誌』  
第 56 号、2015 年刊行予定。
- 堀裕「東大寺大仏と宮—大仏供起源考—」、『日本史研究』596 号、日本史研究会、  
pp.1-24、2010.1
- 堀裕「近現代における奈良市璣城寺の「縁起」」、『大阪樟蔭女子大学（学芸学部）  
論集』第 47 号、大阪樟蔭女子大学学芸学部、pp.226-232、2010.1
- 堀裕「七~九世紀における天皇の祖先祭祀—山陵・神宮・廟の関係史—」、『律令  
国家史論集』、栄原永遠男・西山良平・吉川真司編、塙書房、pp.207-225、2010.2
- 堀裕「平安京と寺々—平安初期の構造と歴史—」、『古代の都 3 恒久の都 平安  
京』、西山良平・鈴木久男編、吉川弘文館、pp.237-256、2010.10
- 堀裕「『化他の時代』—天長・承和期の社会政策と仏教—」、『仁明朝史の研究—  
承和転換期とその周辺—』、角田文衛監修・財団法人古代学協会編、思文閣  
出版、pp.81-106、2011.2
- 堀裕「八世紀の凶讖と皇位継承—孝謙・称徳天皇を中心に—」、『NATION 3』、岩田  
書院、片岡耕平ほか編、pp.163-190、2013.10

- 堀裕「多賀城廃寺小考—尊像と塔—」、『東北アジア研究センター報告』 pp6—22、第10号別冊、2013.10
- 堀裕「掘り出される石の識文—聖徳太子未来記と宝誌和尚識—」、『仏教がつなぐアジア—王権・信仰・美術—』、勉誠出版、佐藤文子・原田正俊・堀裕編、pp191 - 212、2014年6月、
- 堀裕「平安新仏教と東アジア」、『岩波講座日本歴史第四巻』、大津透ほか編、pp247—282、岩波書店、2015.1
- 籠橋俊光「仙台藩の国元魚・鳥類産物の調達システム—御日肴所・御肴方を事例に—」、斎藤善之・高橋美貴編『近世南三陸の海村社会と海商』、清文堂出版、pp.91-128、2010.5
- 籠橋俊光「仙台藩の山守について—畠山家文書・山守関係文書における「御印判」—」、池享編『産金村落からみた奥州の地域社会』、岩田書院、pp.55-103、2012.10
- 籠橋俊光「「留物」・「御見抜」と産物—仙台藩の水産物流通と領主的需要—」、熊谷公男・柳原敏昭編『講座 東北の歴史』第三卷（境界と自他の認識）、清文堂出版、pp.109-130、2013.11
- 籠橋俊光「特論二 領国地域社会の中間支配機構について」、稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会—熊本藩政の成立・改革・展開—』、吉川弘文館 pp.126-140、2015.2
- 籠橋俊光「宗勝と宗重—伊達騒動における後見人・重臣間の文書様式と政治状況—」、平川新編『江戸時代の政治と地域社会』第一卷 藩政と幕末政局、清文堂出版、pp.29-59、2015.3
- 兼平賢治「南部馬にみる近世馬の一生」、水本邦彦編『環境の日本史』4、吉川弘文館、pp.134-163、2013.1
- 兼平賢治「「藩主御内書」の基礎的研究—盛岡藩主発給「御内書」を例に—」、『日本史研究』605号、日本史研究会、pp.1-25、2013.1
- 兼平賢治「「御国」「他国」「異国」からみた一七・一八世紀の盛岡藩の「国政」「御国之風儀」」、浪川健治ほか編『近世日本の言説と「知」』、清文堂出版、p43-73、2013.6
- 鈴木琢郎「考選・叙位制と大臣の職掌」、『日本史研究』593号、日本史研究会、pp.1-17、2012.1
- 鈴木琢郎「近代多賀城の史跡利用」、『国史談話会雑誌』53号、東北大学国史談話会、pp.75-92、2012.12

鈴木琢郎「蝦夷の朝貢・饗給と多賀城 —南北大路隣接地の大型建物群の理解をめぐって—」、『福大史学』82号、福島大学史学会、pp.91-109、2013.9

## 1-2 著書・編著

大藤 修『歴史文化ライブラリー 日本人の姓・苗字・名前一人名に刻まれた歴史一』（単著）、吉川弘文館、266p、2012.9

柳原敏昭『中世日本の周縁と東アジア』（単著）、吉川弘文館、346p、2011.2

柳原敏昭『伊達家重臣遠藤家文書・中島家文書～戦国編～』（共著）、白石市教育委員会、白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会、120p、2011.12

柳原敏昭『青森県史 資料編・中世3』（分担執筆）、青森県、785P、2012.3

柳原敏昭 東北文化資料叢書6『東北中世史の開拓者 大島正隆資料集』（編著）、東北大学文学研究科東北文化研究室、250P、2012.3

柳原敏昭・熊谷公男『講座東北の歴史3 境界と自他の認識』（共編著）、清文堂、341p、2013.11

柳原敏昭『新編 八戸市史 中世資料編編年資料』（分担執筆）、八戸市、500p、2014.3

柳原敏昭『新編 八戸市史 通史編I 原始・古代・中世』（分担執筆）、八戸市、613p、2015.2

安達宏昭『年報・日本現代史 第15号 六〇年安保改定とは何だったのか』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会編）現代史料出版、272p、2010.6

安達宏昭『仙台市史 通史編8 現代1』（共著）仙台市、（分担執筆 第1章第1節「占領期の仙台市政」、第8章第1節「社会運動」）、599p、2011.5

安達宏昭『年報 日本現代史 第16号 検証 アジア・太平洋戦争』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会）、現代史料出版、286p、2011.7

安達宏昭『年報 日本現代史 第17号 軍隊と地域』（共編）（「年報日本現代史」編集委員会）、現代史料出版、270p、2012.9

安達宏昭・河西晃祐編（共編著）『講座 東北の歴史』第一巻（争いと人の移動）、清文堂出版、352p、2012.12

安達宏昭『「大東亜共栄圏」の経済構想—圏内産業と大東亜建設審議会—』（単著）、吉川弘文館、264P、2013.3

安達宏昭『仙台市史 通史編9 現代2』（共著）仙台市、（分担執筆 第8章第1節「社会運動」）、635p、2013.3

- 安達宏昭『年報 日本現代史 第 18 号 戦後地域女性史再考』（共編）（「年報 日本現代史」編集委員会）、現代史料出版、236p、2013.5
- 安達宏昭『年報 日本現代史 第 19 号 ビキニ事件の現代史』（共編）（「年報 日本現代史」編集委員会）、現代史料出版、248p、2014.5
- 安達宏昭『年報 日本現代史 第 20 号 戦後システムの転形』（共編）（「年報 日本現代史」編集委員会）、現代史料出版、2015.5
- 安達宏昭『平和と安全保障を考える事典』法律文化社（共編）（広島市立平和研究所編）、2015 年刊行予定。
- 堀裕『週刊 新発見！日本の歴史』14 平安時代 2（編著）、朝日出版社、39p、2013.10
- 堀裕・佐藤文子・原田正俊（共編著）『仏教がつなぐアジア—王権・信仰・美術—』勉誠出版、328p、2014.5
- 籠橋俊光『近世藩領の地域社会と行政』（単著）、清文堂出版、364p、2012.5
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 31 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、天明 3 年校閲、目次作成、2013.8
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 32 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、天明 6 年校閲、目次作成、2013.10
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 33 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、寛政元年校閲、目次作成、2014.3
- 兼平賢治『八戸市史』中世資料編（共編）、八戸市、2014.3
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 34 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、寛政 4 年校閲、目次作成、2014.7
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 35 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、校閲、目次作成、2014.11
- 兼平賢治 校閲『盛岡藩家老席日記雑書』第 36 卷（共編）、盛岡市教育委員会編集、東洋書院、校閲、目次作成、2015.3
- 兼平賢治 『馬と人の江戸時代』（単著）、吉川弘文館、224p、2015.3

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

#### (1) 研究ノート

- 柳原敏昭「境界への逃亡」、竹田和夫編『古代中世の境界意識と文化交流』、勉誠社、pp.265-268、2011.
- 兼平賢治「公儀御鷹師衆・諸藩鷹師からみる一七世紀の東北—盛岡藩を中心に—」、

『東北近世史』39号、pp1～、2015.3

## (2) 書評

安達宏昭「書評・河西晃祐著『帝国日本の拡張と崩壊―「大東亜共栄圏」への歴史的展開―』」、『日本植民地研究』第25号、pp.95～99、2013.6

安達宏昭「文献紹介・中野聡『東南アジア占領と日本人―帝国・日本の解体』」、『同時代史研究』第6号、2013.12

鈴木琢郎「書評 市川理恵『古代日本の京職と京戸』」、『歴史』第111輯、東北史学会、pp. 93-100、2011.10

## (3) 辞典項目

安達宏昭「十五年戦争」、「大東亜共栄圏」、歴史科学協議会編『戦後歴史学用語辞典』、東京堂出版、2012.7

安達宏昭「十五年戦争」、「大東亜共栄圏」、「世界恐慌」、「大東亜会議」、「脱亜論」、「東亜新秩序」、広島市立大学平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、2015年刊行予定

安達宏昭「石原産業会社」ほか全20項目、伊香俊哉ほか編『アジア・太平洋戦争辞典』吉川弘文館、2015年刊行予定

兼平賢治「浪人」、深谷克己ほか編『近世人の事典』、東京堂出版、p248-249、2013

## (4) 解説

柳原敏昭「『東北中世史の旅立ち』を告げる資料群」、『東北大学史料館だより』14、pp.2-4、2011.3

柳原敏昭「信長と北辺の大名・秋田家との通交」、週刊 新発見！日本の歴史1『織田信長の見た「夢」』、朝日新聞出版、p.15、2013.3

## (5) 報告書

大藤 修「大学院 GP 平成21年度日本史専攻分野の活動」、『平成21年度大学院教育改革支援プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」事業報告書』、pp8-10、2011

大藤 修「歴史科学専攻における大学院 GP の取組 日本史専攻分野」、『平成22年度大学院教育改革支援プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員

- 養成計画」事業報告書』、pp18-20、2011
- 大藤 修「歴史科学専攻における大学院 GP の取組 日本史専攻分野」、『平成 22 年度大学院教育改革支援プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」事業報告書』、pp18-20、2011
- 大藤 修「歴史資源アーカイブ構築に関する取組の総括 日本史専攻分野」、『平成 20～22 年度大学院教育改革支援プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」事業報告書』、pp7-9、2011
- 柳原敏昭「東北大学史料館所蔵『大島正隆文書』」（共著）、『国史談話会雑誌』51、pp.102-170、2010.12
- 堀裕「璉城寺（紀寺）総合学術調査 2」（共著）、『大阪樟蔭女子大学（学芸学部）論集』第 46 号、pp.211-218、2009
- 籠橋俊光「紛争解決と中間支配機構—水戸藩大山守・山横目の訴訟・内済への対処について—」、『「近世中後期地域の中間支配・由緒・蔵書・文芸研究—近世豪農アーカイブズの総合的調査研究を通して—」研究成果報告書』 pp7-20、2010.3
- 兼平賢治「矢巾町の歴史」「徳丹獅子踊」「高田念仏剣舞」、矢巾町伝統文化活性化実行委員会編『矢巾町文化財調査報告書第 40 集 矢巾町の民俗芸能』、pp3-4、pp15-19、pp20-23、2015.3
- 鈴木琢郎「市川橋遺跡-第 72 次調査-出土の漆紙文書」、（共著）、『多賀城市文化財調査報告書』第 107 集、多賀城市教育委員会、2011.7

## （6）その他

- 大藤 修「今日、二宮尊徳を取り上げるならば」、横浜教科書研究会編『自由社版『新しい歴史教科書』でどう教えるか』第 1 号、pp16-17、2010.4
- 大藤 修「イールズ闘争の今日的意義—イールズの大学管理法案と国立大学法人化—」、『蒼空に梢つらねて イールズ闘争 60 周年・安保闘争 50 周年の年に北大の自由・自治の歴史を考える』、「北大 5・16 集会報告集」編集委員会編、柏艚社、pp.344—347、2011
- 大藤 修「持論時論 震災復興記録を未来へ」、『河北新報』2012 年 1 月 11 日付
- 大藤 修「姓・苗字・氏と女性」、『本郷』No.102、pp.21—23、吉川弘文館、2012.11
- 大藤 修「江戸時代の庶民の学びと文化創造」、『「一関ふるさと学習院」文化講座集録』第 4 編、NPO 法人一関文化会議所、2013.3

- 柳原敏昭 コラム「中世日本の南と北」、『沖縄県史』各論編3 古琉球、沖縄県教育委員会、pp22-23、2010.
- 柳原敏昭「日本史研究室で見つかった島尾敏雄の手紙—奄美史研究の一齣—」、『国史談話会雑誌』54、pp.150-153、2014.1
- 柳原敏昭「国史・日本史研究室略年表(2013年版)」、『国史談話会雑誌』54、pp.93-105、2014.1
- 安達宏昭「研究と教育の間で」、東北大学高度教養教育・学生支援機構編『大学教員のブレークスルー (PDブックレット VOL.6) 』、pp.80-84、2015.2
- 堀裕「文学の「読み方」はあるか—田辺文学の教材化の試み—」(共著)、『大阪樟蔭女子大学(学芸学部)論集』第46号、pp.219-230、2009
- 堀裕「藤原氏の陵墓—葬法と寺院と—」、『歴史のなかの天皇陵』、高木博志・山田邦和編、思文閣出版、pp120—121、2010
- 籠橋俊光「おでかけの行き先」「おでかけのおみやげ」、『家族でおでかけ～夏休みの思い出～』(共著)、東北歴史博物館、pp.39-51、2012.7
- 籠橋俊光「伊達騒動関係文書—伊達一門諫言書—」「寺小僧と村の子供の喧嘩一件」、『2013年度古文書を読む 解読実践コース 解説ノート』22号、日本放送協会学園、pp.6-11、pp.26-32、2013.4
- 籠橋俊光「おほへ—仙台藩重臣の娘への訓戒—」「北上川入会鮭漁場につき訴状」、『2014年度古文書を読む 解読実践コース 解説ノート』23号、日本放送協会学園、pp.11-20、pp.47-53、2014.4
- 鈴木琢郎「石碑は語る —多賀城と斉藤実—」、『広報多賀城』、多賀城市、2011.11
- 鈴木琢郎「史蹟・名勝・天然記念物」、『宮城県公文書館だより』22号、宮城県公文書館、2012.9
- 鈴木琢郎「昭和15年の運動会」、『宮城県公文書館だより』23号、宮城県公文書館、2013.9
- 鈴木琢郎「新島夫妻と宮城県と公文書と」、『PASSION』35号、金剛株式会社、2013.10
- 鈴木琢郎「宮城書籍館と宮城の近代」、『宮城県公文書館だより』26号、宮城県公文書館、2014.11

#### 1-4 口頭発表

##### (1) 国際学会

堀裕「平安京と寺院・法会―画期としての淳和天皇と仁明天皇―」、単独、韓日中古  
都と都市仏教シンポジウム、東国大学校仏教社会文化研究院/韓国慶州、2012年  
2月4日

安達宏昭「戦時期における日本企業の南方事業展開―古河系企業を事例として―」、  
単独、環東アジア研究センター国際シンポジウム「戦時期の日本の東南アジア  
進出をめぐる」新潟大学、2014年1月25日

## (2) 国内学会

大藤 修「1950年イールズ事件をめぐる」、単独、日本科学者会議総合学術会  
議分科会「大学自治の現在を考える―『東北大学百年史』を素材として―」、  
KKRホテル仙台、2010年11月21日

柳原敏昭「中世日本国周縁部の正統観念」、地中海学会シンポジウム「フロンテ  
ィア ― 周縁か中心か」、東北大学、2010年6月20日。

柳原敏昭「1938年の『大学自治問題』」、単独、日本科学者会議総合学術会議分  
科会「大学自治の現在を考える―『東北大学百年史』を素材として―」、KKR  
ホテル仙台、2010年11月21日

柳原敏昭「大島正隆探訪「織田家御内書 十四通」―秋田家史料の「新出」文書紹介  
―」、東北史学会大会、東北大学、2011年10月2日

柳原敏昭「史学史研究の現在」、全国中世史サマーセミナー50周年記念シンポジウム、  
埼玉県立嵐山史跡の博物館、2012年8月26日

柳原敏昭「黒嶋報告へのコメント」、単独、史学会大会中世史部会シンポジウム、東  
京大学、2012年11月11日。

安達宏昭「錯綜する『大東亜経済建設』構想」、単独、日本植民地研究会全国研  
究大会共通論題報告『「大東亜共栄圏」構想の矛盾と破綻―広域圏問題の視  
点から』、立教大学、東京都、2011年7月3日

安達宏昭「戦前・戦後の工業化構想と塩釜―港湾を中心に―」、単独、交通史学  
会シンポジウム「東北の名所―松島・塩釜のあゆみ―」、東北大学、2014  
年9月20日

安達宏昭「『決戦段階』期における大東亜省の経済政策」、単独、東北史学会大  
会、福島大学、2014年10月4日

堀裕「祥瑞・讖からみた天皇とその周辺」、東北中世史サマーシンポジウム、仙  
台市震災復興記念館、2010年8月29日



堀裕「9世紀日本の「飢民」と社会政策と仏教」、宮城歴史科学協議会大会、東北大学土樋キャンパス、2012年9月29日

堀裕「道鏡の法王就任をめぐる憶説」、単独、史学会大会、東京大学本郷キャンパス、2012年11月10日

籠橋俊光「コメント：藩領中間支配機構について」、熊本大学文学部附属永青文庫研究センターシンポジウム「日本近世の領国地域社会—熊本藩政改革を焦点に一」、熊本大学、2013年12月1日

鈴木琢郎「九世紀城柵の災害史料」、古代城柵官衙遺跡検討会、東北歴史博物館、2013年2月24日

鈴木琢郎「知太政官事と大臣の序列」、国史談話会大会、東北大学、2014年6月14日

### (3) 研究会

柳原敏昭「遠野南部家の系図編纂」、東北中世史・近世史研究会合同特別例会「南部家文書の世界」、2010年7月18日。

柳原敏昭「大島正隆と森嘉兵衛—戦前・戦中期東北地方の研究者間交流—」、東北大学中世史研究会大会講演、2011年7月16日。

柳原敏昭「柳田國男に師事した東北帝大生—大島正隆の民俗学と歴史学—」、東北大学大学院文学研究科東北文化研究室公開講演会 柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」報告、東北大学、2011年11月19日。

柳原敏昭「『山田聖栄自記』と『奥州余目記録』」、隼人文化研究会例会、鹿児島県歴史資料センター黎明館、2012年5月19日。

柳原敏昭「外交文書に見る戦国期南奥羽の地域性—遠藤家文書の調査から—」、東北中世史研究会サマーセミナー、米沢市、2012年8月5日。

柳原敏昭「『鎌倉遺文』の「古田券」を典拠とする文書について」、公開研究会・協調作業環境下での中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築、東京大学史料編纂所、2012年9月18日。

柳原敏昭「南九州の平泉伝説—『山田聖栄自記』を中心として—」、隼人文化研究会、鹿児島県歴史資料センター黎明館、2015年3月8日

安達宏昭「デジタル・アーカイブと日本近現代史研究・教育」、愛知学院大学人間文化研究所研究会、愛知県日進市、2014年12月20日

堀裕「「化他」の時代—九世紀前半の仏教政策—」、古代学協会・仁明朝研究会、

同志社女子大学/京都市、2009年3月29日

堀裕「文献からみた長岡京と寺院」、第23回古代寺院研究会、長岡京市公民館、  
京都府長岡京市、2013年1月5日

堀裕「光仁桓武朝仏教改革論」再考」、仙台古代史懇話会、仙台市戦災復興記念館、  
2014年1月25日

堀裕「多賀城廃寺の尊像配置と塔・再考」、第28回古代寺院研究会、京都府立大学、2014  
年3月29日

堀裕「9世紀仏教と政策論」、2014年度宗教史懇話会サマーセミナー、滋賀県琵琶湖国  
定公園 近江白浜 政府登録旅館 白浜荘、2014年8月20日

堀裕 「陸奥・出羽の仏教政策と「良吏）」、第30回古代寺院研究会、東北学院大学、  
2014年9月12日

風間亜紀子「律令制下の大寺」、古代史サマーセミナー、三重県鳥羽市、2010年8  
月20日。

鈴木琢郎「〈史料紹介〉市川橋遺跡72次調査出土漆紙文書国司解案」、仙台古代  
史懇話会、仙台市戦災復興記念館、2011年1月9日

鈴木琢郎「応天門事件の再検証」、宮城学院女子大学キリスト教文化研究所公開  
研究会、宮城学院女子大学、2013年7月29日

## 2 教員の受賞歴（2010～2015年度）

大藤 修、仙台市政功労者表彰、2011年度

## IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

### （1）科学研究費補助金

平成19～23年度 基盤研究（A）今泉隆雄（研究分担者）「GISを用いた東アジア  
都市・王城遺跡形成史の比較研究」（研究代表者：山中章）13,400,000円（平  
成19年度分）

平成20～23年度 基盤研究（A）：柳原敏昭（研究分担者）「東北地域及び東アジア  
諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究」（研究代表：  
山本隆志） 340,000（平成22年度委任経理金）

平成21～24年度 基盤研究（A）：柳原敏昭（研究分担者）「協同利用環境下で  
の中世文書の網羅的収集による古文書学の再構築」（研究代表：近藤成一）  
300,000（平成24年度委任経理金）

平成 21～23 年度 基盤研究 (C) : 安達宏昭 (研究代表者) 「戦時期日本における広域経済圏構想に関する研究」 1,800,000 (3 年総額)

平成 22～24 年度 基盤研究 (C) : 大藤 修 (研究代表者) 「仙台藩儒学者芦東山関係史料の調査・整理と研究基盤の形成」 2700,000 (3 年総額)

平成 22～24 年度 基盤研究(C) : 柳原敏昭 (研究代表者) 「日本中世の『外国人居留地』に関する比較史的研究」 780,000 (平成 24 年度)

平成 23～25 年度 基盤研究 (C) : 堀裕 (研究代表者) 「日本古代の予言 (讖) と皇位継承」 2,080,000 (3 年総額)

平成 23～28 年度 基盤研究 (A) : 堀裕 (研究分担者) 「古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的比較研究」 (研究代表: 菱田哲郎) 6,370,000 (6 年間総額)

平成 25～29 年度 基盤研究 (B) : 柳原敏昭 (研究代表者) 「平泉研究の資料学的再構築」 2500,000 (27 年度)

平成 25～27 年度 基盤研究 (A) : 柳原敏昭 (研究分担者) 「未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築」 (研究代表者: 近藤成一) 200,000 (27 年度委任経理金)

平成 25～27 年度 基盤研究 (C) : 安達宏昭 (研究代表者) 「戦前期日本における広域経済圏構想に関する研究」 2,860,000 (3 年総額)

平成 25～29 年度 基盤研究 (B) : 堀裕 (研究分担者) 「平泉研究の資料学的再構築」 (研究代表: 柳原敏昭) 100,000 (27 年度分担金)

平成 26～31 年度 基盤研究 (B) : 堀裕 (研究分担者) 「『類聚三代格』の史料学的研究」 (研究代表: 熊谷公男)、250,000 (平成 27 年度)

平成 27～29 年度 基盤研究 (C) : 堀裕 (研究代表者) 「孝謙・称徳期にみる「王権」の構造的転換の研究」、235,100 (3 年総額)

## (2) その他

平成 20～24 年度グローバル COE プログラム: 大藤 修 (事業推進担当者) 「社会階層と不平等研究教育拠点の世界的展開」

平成 20～22 年度大学院教育改革支援プログラム: 大藤 修 (取組実施担当者) 「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」

## V 教員による社会貢献 (2010～2015 年度)

## (1) 政府・地方公共団体関係機関などの委員

大藤 修

仙台市博物館協議会委員 2001年4月～2011年3月

一関市芦東山記念館運営委員, 2007年5月～2011年3月

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク理事, 2007年4月～現在

一関市芦東山記念館館長 2011年4月～2012年3月

柳原敏昭

青森県史編さん専門委員 2000年度～現在

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク副理事長 2007年4月～現在

八戸市史編集委員会 原始・古代・中世部会 調査研究員 2008年4月～2015年3月

伊達市宮脇遺跡調査指導委員会委員 2008年7月～2013年3月

伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員長 2004年12月～2016年11月

安達宏昭

仙台市史編さん調査分析委員 2003年9月～2012年3月

岩沼市史編集専門委員会委員 2009年4月～現在

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事 2007年4月～現在

堀 裕

NPO法人・おまけ文化の会理事 2002年2月～2010年6月

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事 2010年5月～現在

籠橋俊光

宮城県多賀城市文化財保護委員 2006年8月～2011年7月

東北大学東北アジア研究センター プロジェクト研究部門「歴史資料保全のための地域連携研究ユニット」外部評価委員 2008年4月～2011年3月

宮城県近代和風建築総合調査委員会委員 2014年5月～現在

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク理事 2014年5月～現在

岩沼市史編集専門委員会委員 2014年10月～現在

兼平賢治

八戸市史編集委員会調査研究委員、2008年4月～2014年3月

八戸市史執筆委員、2011年2月～2014年3月

矢巾町伝統文化調査委員、2012年12月～2015年3月

原町市史編纂専門研究委員、2013年4月～現在

岩沼市史編集専門部会調査執筆員、2013年4月～現在

紫波町文化財調査委員 2014年7月～現在

大槌町文化財保護審議委員 2014年10月～現在

## (2) 公開講座等の講師

大藤 修

一関市芦東山記念館開館3周年記念講演会、「江戸時代の文化・学問環境と芦東山」、2010年10月24日、一関市芦東山記念館

宮城県大和町教育委員会主催「まほろば大学郷土史講座」、「姓・苗字・名前に探る日本の歴史—身近な事象から歴史を考える—」、2011年7月30日、大和町まほろばホール

東北大学大学院文学研究科・宮城県岩出山町共催「有備館講座」、「江戸時代の家と村における男と女」、2011年8月20日、岩出山町スコーレハウス

NPO 法人一関文化会議所主催「一関ふるさと学習院文化講座」、「江戸時代の庶民の学びと文化創造」、2012年6月23日、一関市総合福祉センター

仙台郷土研究会講演会、「仙台藩儒学者芦東山の生涯と関係史料の伝来・構成」、2012年6月24日、仙台市東北外国語専門学校

秋田姓氏家系研究会創立45周年記念講演会、「姓・苗字・名前の歴史」  
2012年9月22日、秋田市第一会館本館

柳原敏昭

大崎市郷土歴史講演会「中世日本、北と南の正統観念」、2010年5月29日、大崎市古川中央公民館

根城おもしろ講座「源氏南部八戸家系の成り立ち」、2010年6月6日、八戸市史跡根城の広場

出前授業「東北大学文学部ガイダンス」「東北大学文学部の特徴と入試」、秋田県立秋田高校 秋田市、2011年6月8日

歴史シンポジウム in 白石「南奥羽の戦国世界～新発見！遠藤家文書に見る戦国大名の外交～」コーディネーター、2011年12月10日、白石市ホワイトキューブ

東北大学文学研究科有備館講座「戦国時代東北の「地域」—新発見「遠藤家文書」から見る—」、大崎市松山公民館、2012年7月21日

島根県益田市・歴史を活かしたまちづくり講演会パート 14 基調講演「益田の港湾遺跡と清盛の時代の交易」、島根県芸術文化センター・グラントワ、2012年9月23日

東北文化研究室公開講演会・歴史の中の東北大学と社会―「門戸開放」と女子学生、「女子学生運動事始」、東北大学大学院文学研究科、2013年11月30日  
東北学院大学文学部歴史学科 第17回公開講座・戦いの歴史Ⅳ「流転する合戦の物語―平泉・義経そして南九州―」、東北学院大学土樋キャンパス、2014年6月11日

安達宏昭

国史談話会公開講演「帝国日本の拡張と矛盾―自給圏の形成をめぐる―」、講演、2014年6月14日、東北大学

堀 裕

歴史学入門講座実行委員会主催 歴史学入門講座「9世紀日本と仏教」、2012年7月8日、京都機関紙会館

宮城県教育委員会主催 みやぎ県民大学「日本古代の僧侶の暮らしと寺院の様子」、2012年9月22日、東北大学

寒河江市教育委員会主催 慈恩寺シンポジウム「12世紀の慈恩寺の一側面―御願寺と経蔵から―」、2012年11月17日、寒河江市文化センター・ホール

上廣歴史資料学研究部門・岩出山古文書を読む会共催、講座・地域の歴史を学ぶ「多賀城廃寺を考える」、2012年12月1日、岩出山公民館

東北大学大学院文学研究科・宮城県岩出山町共催「有備館講座」、「文化の政治―9世紀日本の仏教―」、2013年8月10日、岩出山公民館

籠橋俊光

みやぎ婦人会館主催 竹馬の友大学講座「伊達騒動・序説」、2010年5月12日、みやぎ婦人会館

大崎市主催 大崎市岩出山町有備館秋期展示解説会「絵図と刷り物で楽しむ江戸の旅」、2010年11月20日、岩出山文化会館

宮城県教育庁生涯学習課主催 みやぎ県民大学生涯学習活用出前講座「仙台藩における白石」、2011年10月19日、白石市中央公民館

仙台市加茂市民センター主催 シニアカレッジ「仙台近郊 江戸学」、2011年11月10日、加茂市民センター

宮城学院女子大学主催 シンポジウム「3.11 から心の復興～今ミュージアムに出

来ることは？」、2012年7月14日、宮城学院女子大学  
宮城県教育庁生涯学習課主催 みやぎ県民大学生涯学習活用出前講座「仙台藩に  
おける松島」、2012年8月7日、松島町中央公民館  
宮城県大崎地区教育研究会主催 「大崎地域の歴史をさぐる－江戸時代の絵図  
に見る－」、2014年5月9日、古川第一小学校  
大崎市岩出山公民館・岩出山古文書を読む会主催「初めての古文書講座 公開講  
演会」、「絵図の見方－仙台藩のすがたかたち－」、平成27年3月14日、大崎市  
岩出山公民館

#### 兼平賢治

紫波町日詰公民館 初心者古文書講座 講師 2013年7月～現在  
岩手日報社主催、岩手日報カルチャースクール「盛岡藩の目安箱と一揆」、  
岩手日報社本社、2013年7月20日、8月10日  
八戸市博物館「江戸時代の三陸沿岸における長崎俵物生産について」、2013  
年10月5日  
岩手県立博物館「南部利済の功罪」、2013年11月3日  
盛岡の歴史を語る会「豪商前川善兵衛家と盛岡藩」、2013年11月15日  
矢巾町公民館「やはばの歴史 その概要」、2014年1月17日  
矢巾町公民館「馴染んでみよう！やさしい古文書」、2014年1月29日  
盛岡市立西部公民館「盛岡藩通史」、2014年5月17日  
岩手県立博物館「二人の藩主 南部重信と南部直政」、2014年7月13日  
岩手日報社主催、岩手日報カルチャースクール「江戸時代の旅について」、  
岩手日報社本社、2014年8月2日、8月30日  
盛岡の歴史を語る会「「雑書」にみる近世の旅」、2014年11月21日  
大槌町中央公民館「江戸時代の三閉伊通と大槌一藩日記「雑書」と前川家  
文書を中心に－」、2014年11月23日

#### 鈴木琢郎

宮城県民大学「知の原点 宮城県図書館史」、宮城県図書館、2014年9月6  
日

### (3) ボランティア活動

大藤修・柳原敏昭・安達宏昭・堀裕・籠橋俊光

宮城歴史資料保全ネットワークの史料保全活動：

宮城歴史資料保全ネットワークの1員として、2003年7月に発生した宮城県北部地震で被災した歴史資料の救出活動と、将来の発生が予想される宮城県沖地震に備えての地域伝来史料の所在調査を実施。

東日本大震災に際し、史料レスキューと塩分やカビ除去作業を実施。

大藤 修 一関市大東町渋民芦和郎氏宅所蔵史料の整理と目録作成 2010年8月25日～27日

大藤 修 一関市大東町渋民芦全氏所蔵史料の整理と目録作成 2011年4月27日、7月4日、9月16日～18日

大藤 修 一関市大東町渋民芦全氏所蔵史料の整理と目録作成 2012年3月5日～7日

兼平賢治

岩手歴史民俗ネットワークの活動の一環として、岩手県陸前高田市の吉田家文書「定留」の修復支援活動、および、岩手県山田町・大槌町における文化財保全活動を行った。個人宅の所蔵文書について、被災古文書の整理を行った。

兼平賢治

2014年5月から、紫波町教育委員会が所蔵する近世の絵図面について、紫波町日詰公民館初心者古文書講座の受講生とともに、中性紙封筒に入れ替えて整理をする作業を進めている。

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

大藤 修

比較家族史学会 理事	1995年6月～2011年6月
東北近世史研究会 会長	1995年4月～2014年2月
史学会 評議員	1999年10月～2010年10月
国史談話会会長	2010年4月～2013年3月
東北史学会副会長	2009年10月～2011年10月
東北史学会会長	2011年10月～2013年10月

柳原敏昭

宮城歴史科学研究会委員	1997年9月～現在
東北大学国史談話会役員	1998年6月～2013年3月
東北大学国史談話会会長	2013年4月～現在
東北史学会評議員	1998年10月～現在



東北史学会理事 2003年10月～現在  
史学会評議員 2006年5月～2012年3月  
日本古文書学会評議員 2011年10月～現在  
日本歴史学会評議員 2013年7月～現在

安達宏昭

国史談話会委員 2004年6月～現在  
東北史学会評議員 2003年10月～現在、  
東北史学会理事 2005年10月～現在  
日本植民地研究会運営委員（編集委員）2007年6月～2011年5月  
宮城歴史科学研究会委員 2005年9月～現在  
「年報日本現代史」編集委員会委員 2004年5月～現在  
同時代史学会理事、2007年1月～現在  
同時代史学会編集委員会委員長、2010年1月～2012年1月  
日本植民地研究会理事、2015年6月～

堀 裕

国史談話会 委員 2010年6月～現在  
木簡学会多賀城特別研究集会実行委員 2010年5月～2010年9月  
宮城歴史科学研究会委員 2010年9月～現在  
東北史学会評議員 2011年10月～現在  
東北史学会理事 2013年10月～現在

籠橋俊光

国史談話会委員 2009年6月～現在  
東北近世史研究会会長 2014年2月～現在

風間亜紀子

木簡学会多賀城特別研究集会運営委員 2009年9月1日～2010年9月

兼平賢治

岩手史学会評議員 2012年10月～現在

## Ⅶ 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2015年度）

#### 1 大学院授業担当

柳原敏昭 教授

- 1 学期 日本古代・中世史特論Ⅲ 日本中世古文書の英訳を読む  
 2 学期 日本古代・中世史特論Ⅳ 日本中世史料の研究  
 1 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅴ 鎌倉時代の法と社会（1）  
 2 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅵ 鎌倉時代の法と社会（2）  
 1 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅶ 中世史料演習（1）  
 2 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅷ 中世史料演習（2）  
 1 学期 史料学Ⅰ 中世古文書演習  
 通年 課題研究

安達宏昭 教授

- 1 学期 日本近世・近代史特論Ⅰ 日本近現代史研究の現状と課題（1）  
 2 学期 日本近世・近代史特論Ⅱ 日本近現代史研究の現状と課題（2）  
 1 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅴ 近現代政治・社会史の研究（1）  
 2 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅵ 近現代政治・社会史の研究（2）  
 1 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅶ 近現代史研究法（1）  
 2 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅷ 近現代史研究法（2）  
 通年 課題研究

堀 裕 准教授

- 1 学期 日本古代・中世史特論Ⅰ 日本古代史の研究と方法（1）  
 2 学期 日本古代・中世史特論Ⅱ 日本古代史の研究と方法（2）  
 1 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅰ 古代史料の研究（1）  
 2 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅱ 古代史料の研究（2）  
 1 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅲ 古代史料研究（1）  
 2 学期 日本古代・中世史研究演習Ⅳ 古代史料研究（2）  
 通年 課題研究

籠橋俊光 准教授

- 1 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅰ 近世史料研究Ⅰ  
 2 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅱ 近世史料研究Ⅱ  
 1 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅲ 近世史研究法Ⅰ  
 2 学期 日本近世・近代史研究演習Ⅳ 近世史研究法Ⅱ  
 2 学期 史料学Ⅱ 近世古文書読解  
 1 学期 史料管理学Ⅰ 史料整理・保存の理論と方法  
 2 学期 史料管理学Ⅱ 史料整理実習

通年 課題研究

松崎 瑠美 助教（博士課程教育リーディングプログラム所属）

1 学期 日本近世・近代史特論Ⅲ Understanding Japanese History

2 学期 日本近世・近代史特論Ⅲ History of Disaster

佐藤 大介 准教授（兼務教員・東北大学災害科学国際研究所）

1 学期 日本近世・近代史特論Ⅰ 地域の歴史を学び、伝える―史料保全の実践と方法（その1）

2 学期 日本近世・近代史特論Ⅱ 地域の歴史を学び、伝える―史料保全の実践と方法（その2）

## 2 学部授業担当

柳原敏昭 教授

4 セメスター 日本史基礎購読 中世史料講読

4 セメスター 古文書学 中世古文書読解入門

5 セメスター 日本史演習 鎌倉時代の法と社会（1）

6 セメスター 日本史演習 鎌倉時代の法と社会（2）

5 セメスター 日本史演習 中世史料演習（1）

6 セメスター 日本史演習 中世史料演習（2）

5 セメスター 日本史各論 日本中世古文書の英訳を読む

6 セメスター 日本史各論 日本中世史料の研究

5 セメスター 歴史地理学Ⅱ（理学部）

安達宏昭 教授

3 セメスター 日本史基礎購読 近現代史料購読

3 セメスター 日本史各論 日本近現代史研究の現状と課題（1）

4 セメスター 日本史各論 日本近現代史研究の現状と課題（2）

5 セメスター 日本史演習 近現代政治社会史の研究（1）

6 セメスター 日本史演習 近現代政治社会史の研究（2）

5 セメスター 日本史演習 近現代史研究法（1）

6 セメスター 日本史演習 近現代史研究法（2）

堀 裕 准教授

4 セメスター 日本史基礎講読 古代史料講読

5 セメスター 日本史各論 日本古代史の研究と方法（1）

- 6 セメスター 日本史各論 日本古代史の研究と方法 (2)
- 5 セメスター 日本史演習 古代史料の研究 (1)
- 6 セメスター 日本史演習 古代史料の研究 (2)
- 5 セメスター 日本史演習 古代史料研究 (1)
- 6 セメスター 日本史演習 古代史料研究 (2)

籠橋俊光 准教授

- 3 セメスター 日本史概論 日本近世史概説
- 4 セメスター 日本史概論 武士と百姓の近世史
- 4 セメスター 古文書学 近世古文書読解
- 5 セメスター 日本史演習 近世史料研究 I
- 6 セメスター 日本史演習 近世史料研究 II
- 5 セメスター 日本史演習 近世史研究法 I
- 6 セメスター 日本史演習 近世史研究法 II
- 5 セメスター 日本史実習 史料整理・保存の理論と方法
- 6 セメスター 日本史実習 史料整理実習

佐藤 大介 准教授 (兼務教員・東北大学災害科学国際研究所)

- 5 セメスター 日本史各論 地域の歴史を学び、伝える—史料保全の実践と方法 (その1)
- 6 セメスター 日本史各論 地域の歴史を学び、伝える—史料保全の実践と方法 (その2)

### 3 共通科目・全学科目授業担当

柳原敏昭 教授

- 2 セメスター 総合科目 東北大学の人々

安達宏昭 教授

- 2 セメスター 総合科目 東北大学の人々
- 2 セメスター 展開科目 アジアを知ろう、感じよう

籠橋俊光 准教授

- 1 セメスター 基礎ゼミ はくぶつかん事始め
- 1 セメスター 人文社会総論 [1 回担当]
- 8 セメスター 教職実践演習 [1 回担当]

## (2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

柳原敏昭 教授

集中講義 放送大学宮城学習センター 2011 年度

安達宏昭 教授

後期 立教大学 2010 年度 2 学期 [1 回担当]

後期 立教大学 2011 年度 2 学期 [1 回担当]

後期 米沢女子短期大学 2012 年度 2 学期 [1 回担当]

後期 立教大学 2012 年度 2 学期 [1 回担当]

後期 東北学院大学文学部 (歴史学科) 2013 年度

前期 東北学院大学文学部 (歴史学科) 2015 年度

堀 裕 准教授

通年 奈良大学文学部 2009 年度

前期 奈良大学文学部 2010 年度 [1 回担当]

後期 東北学院大学文学部 (歴史学科)、2011 年度

前期 東北学院大学文学部 (歴史学科)、2012 年度

風間亜紀子 助教

前期・後期 東北学院大学 2009 年度～2010 年度

前期 米沢女子短期大学 2010 年度 [1 回担当]

兼平賢治 助教

前期・後期 盛岡大学文学部 2007 年度～2013 年度

前期・後期 東北学院大学文学部 2008 年度～2013 年度

後期 東北学院大学文学部 2014 年度

後期 米沢女子短期大学 2014 年度 [1 回担当]

鈴木琢郎 助教

前期 宮城学院女子大学 2010 年度～2015 年度

後期 東北学院大学 2014 年度～2015 年度

後期 山形県立米沢女子短期大学 2014 年度